



河南中通学路のいっそうの安全確保が必要

JR東海3駅(柏原・近江長岡・醒ヶ井)のバリアフリー化の進展を

9月9日6番目として太田議員が一般質問を行いました。テーマは、「市内駅舎のバリアフリー化促進」と「河南中学校通学路の安全確保」の2点です。一般質問、答弁は次の通りです。

太田議員の9月議会での一般質問

市内駅舎のバリアフリー化促進を

2013年12月議会で一般質問を行った。その回答で「JR東海に公共交通の当然の責務として強く訴えていく。また国に対しても利用客3千人以上の補助要綱も見直しを求める。」とした。その後の状況について4点について質問を行いました。

① JR東海との協議の進捗は。

a、JR東海は、1日3千人以上の利用者がある駅を優先して整備を進めている。3駅については、バリアフリー整備をする対象駅ではないとの回答。公共交通機関の責務として、利用者数に関わらずバリアフリー化を進めるよう、今後も粘り強く要望していく。

② 高齢者や障がい者、子供連れの者が急な駅階段を上り下りすることは困難。市として設置することはできないか。

a、エレベーターを2基設置した場合に必要な費用は、3億円程度かかる。市が全額負担したとしても駅舎の構造によつては、実施できるかどうかはわからない。JR東海の協力があればエレベーターを設置することは可能としても、市が工事費を全額負担しての整備は、困難な状況。

③ エレベーター以外での弱者対策は。

a、スロープの設置や車いす用の階段昇降機の設置などの方法がある。今後も引き続き、エレベーターの設置とともに要望していく。障がい者などのお客に、列車乗車の2日前までに、申し込めば、駅係員が乗降を補助するというサービスを実施している。

④ 利用客を増やすには「賑わい」も大切である。その取り組みは。

a、JR東海3駅周辺地域を市移住定住促進モデル地域として、地域内にある空家や空地を活用した移住定住促進を図るための各種移住定住支援策を定め、取り組んでいる。

河南中通学路の安全確保

次の5点について質問を行いました。

① 自転車通学路の必要幅員は。改修後の最低幅員および今後の改修予定は。

a、幅員は2m以上とされています。平成27年度は特に狭い危険な箇所を改修し、最少幅員は2mです。今後の改修については、課題も多く、早急な全面改修は困難ですが、毎年実施している合同通学路安全点検により随時改修を行う。

② 急勾配箇所、見通しの悪い箇所の改善計画は。

a、勾配が急な箇所については、改修は困難です。冬期には、凍結防止剤の配布を検討。見通しの悪い箇所については、合同通学路安全点検においても指摘があり改修し、通学路の安全対策を図る。

③ 樋口地先の通学路の改良は必要。

a、地元自治会や地権者、河南中学校との協議や課題を整理する必要がある。樋口地先の通学路にはガードレール等、老朽化している箇所もあり必要な部分については、順次改修を行っていきたく。

④ 枝折地先のトンネルの不審者対策は。

a、通学路に啓発看板の設置や、複数で下校するよう指導している。教職員が自転車で見回りなど安全確保が行われている。また毎年、合同通学路安全点検を行っており、協議を行っている。

⑤ 丹生橋の改修が中止されたが、通学路変更の説明や安全対策は。

a、橋の改修ではなく市道改良による歩道整備で、4月に河南中学校、PTA役員、枝折区役員等で構成する「丹生橋に関する対策会議」で協議を行いました。地元枝折自治会には、公民館等の移設が必要で自治会に説明し、検討いただいている。改良計画案が出来次第、関係者と協議を行う。通学路安全対策としては、市道整備と併せて幅3mの自転車歩行者道を設置し、歩車道境界ブロックや転落防止柵などの交通安全施設を整備し、安全な通学道路となるよう整備を検討している。

雑感

16日に市統合庁舎建設に関する特別委員会が開催されました。当局より提案されている庁舎の位置に関する条例(統合庁舎を米原駅東口市有地)について、討論し採決する予定でした。しかし共産党議員団以外の議員の賛成で継続審査になりました。多くの議員から東口反対の意見を聞きました。どの条件が整えば賛成なの？